

住職法話ピース（壺）

片おもひ

法事のこころ

浄土真宗本願寺派

磯辺山 宝尊寺 住職 遠山博文

片おもひ 法事のこころ

今にして知りて悲しむ父母が

われにしましし その片おもひ 窪田空穂

皆さんも片思いの経験がお有りでしょうか。ほのかな思いから辛いものまでありますが、純粹な愛情とも言われます。

「今にして」とは、親が私にしてくれてくれた「片おもひ」すなわち、ご恩を、親が亡くなってからようやく知ることができた、ということでしょう。歌集を調べると七十歳の歌にあります。おそらく、両親が亡くなって何十年も経て、体が動かなくなり、物忘れが多くなって知ることの出来た「今にして」ではないでしょうか。

ところで、ご法事は一周忌・三回忌・七回忌・と勤めます。私は若い頃、「何度もあるんだな」と感じていました。ところが、この歌にであい、私が年を重ね、経験を深めることだと思えるようになりました。たとえば、一周忌や三回忌に気づけなかった「片おもひ」が解るようになり、七回忌には新たな「今にして」、と勤められるようになる訳です。

さて、七高僧の一人で、唐の時代にお念仏を弘められた、善導大師の『往生礼讃』に

時に到りて華自づから散じ

願（ぐわん）に随ひて華還（また）開く

浄土真宗聖典七祖篇（原典版）784

とあります。これは、お浄土の莊嚴を表したものです。先ず、先の歌によつて、「既に、両親は亡くなつたけれど、『その片おもひ』に気づいた今、両親が私にかけて下さつていた願いが、私に還り来たつて華開いてくださった」と、味わいました。

それは、単に「私が年を重ね、経験を深めて、親の願いが解るようになった」だけではありません。「亡き両親を、今も私を導いて下さる仏様」といただくことです。

悲しいかな、私たちは親の願いや恩に、後から気づくものです。しかし、私が気づいたとき初めてそこに願いや恩が現れるわけではありません。私が気づこうと気づくまいと、既に願いの中にあつたからこそ、人生の経験を深め、縁が熟した今、気づくことができたわけです。

さて、阿弥陀様のみ教えにであうことが出来るのも、私が既に、阿弥陀様の「片おもひ」の中にあつたから、といえるのではないのでしょうか。

宝専寺 こころの教室

定例法座 「十日会」

毎月十日 1時半～3時

小学生の集い「てらこや」

毎月第三土曜日 9時半より

未就学児「てらこやたけのこ組」

毎月第三金曜日 9時半より

聞きましょう「テレホン法話」

毎月更新 **0557-37-2333**

見ましょう「テレビ法話」

毎週 金曜日・土曜日 ケーブルテレビ
12ch CVA ニュース 2枠で